



各地で行われたイベント&話題をお届けします

● 千葉など県内外から参戦 広島県雪合戦大会 in 高野

- ①1セット 90 個の雪玉を投げ合う
- ②シェルター（壁）越しの激しい戦い
- ③ドレスで雪合戦? コスチュームを競う
- ④チューブスライダーで雪遊び
- ⑤感謝状が贈られた門主修司さん



第12回広島県雪合戦大会が1月31日・2月1日の両日、高野スポーツ広場で開催されました。

県内外から98チーム、約1,000人が参加し、熱戦を繰り広げました。

1チーム7人が縦10m、横36mのコート内で対戦。選手たちは1セット90個の雪玉を直球や山なりに浮かせて投げ合いました。駆け引きと迫力ある攻防に、観客から声援と拍手が上がりました。

前回大会から一般の部を、全国大会の出場権を目指すPリーグと、雪合戦を楽しみたい人のFリーグに分け、チームの目標に合わせて雪合戦を楽しめるよう企画。

Pリーグでは、北広島町のタートルズが初優勝し、庄原市以外のチームとして初めて全国大会の切符を手にし

ました。大会関係者は「雪合戦が県内に広く浸透してきた証拠」と歓迎し、全国大会常連の千葉レイブズは「全国屈指のレベルの高い大会」と初参加の感想を話していました。

会場の一角には、雪遊びコーナーやバザーコーナーなども設けられ、多くの来場者でにぎわいました。

また、一日目の開会式で大会実行委員の門主修司さんが、島根県雪合戦大会（浜田市）で心肺停止状態になった男性に心肺蘇生法を施し、命を救ったとして、島根県雪合戦大会実行委員長から感謝状が贈られました。



もんじゅしゅうじ

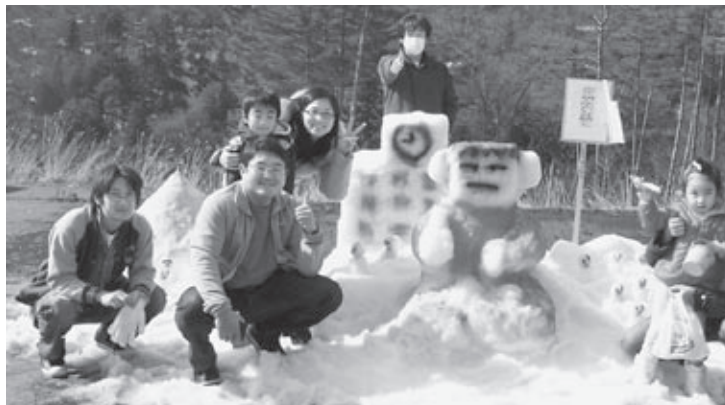
● 個性あふれる雪だるま 比和町雪まつり

2月15日、元ドルフィンバレイスキー場で、第6回比和町雪まつりが開催されました。

雪を活かして楽しんでもらおうと比和町観光協会が主催したもので、市内外の観光客でにぎわいました。メインイベントの「雪だるまコンテスト」には、グループや家族連れなど8チームが参加。完成した作品は個性あふれるものばかりで、来場者を楽しませていました。

また、そり遊びやかんじき、竹スキーの体験も行われたほか、温かいメニューのそろった屋台コーナーでは、地元の味がふるまわれました。

参加者は「雪だるまづくりは大変だったけど、みんなで協力して良い作品ができて良かった」「雪と触れ合えて楽しかった」と話していました。



雪像の完成を喜ぶ参加者

● 歴代の作品をまるごと紹介 「山の子会」が記念展示

平成20年度こどもの読書活動優秀実践団体として文部科学大臣賞を受賞した「山の子会」が、2月13日から15日までの3日間、東城支所ホールで記念展示会を開きました。

会場では、東城の民話や児童文学作品を題材にした手作り大型紙芝居、パネルシアターやペープサートなど歴代の全30作品を展示。15日には、会員による読み聞かせも行われ、参加者約80人が聞き入りました。

訪れた親子連れは「しかけ絵本やぬいぐるみ、手書きの紙芝居などすべての作品に手作りならではの温もりを感じます」と話していました。

「山の子会」は、子どもたちへ紙芝居や絵本の読み聞かせ活動を32年間続けています。



山の子会による読み聞かせ

● 庄原応援団ツアーが 市内巡り やまなみクルージング

庄原市の交流拠点を巡る「やまなみクルージング」が2月13日に行われ、福山市からの参加者18人をもてなしました。

これは、福山市在住で中国山地やまなみ大学副学長を務める三好久美子さんが「地方の元気再生事業」の一環で、庄原市の良いところを広く紹介したいと企画。「庄原応援団」と名づけた一行は、総領町の「木屋ことば公園」、備北丘陵公園の「さとやま屋敷」、口和郷土資料館、比和町の「ノラの家」を巡りました。口和郷土資料館では、竹屋饅頭と抹茶の振る舞いを受け、映写室で西城の町並みを映画「いとしのヒナゴン」で鑑賞。その他、ひな人形を模した楊枝入れの製作や、86歳の現役DJ榎原数彦さんのレコードコンサートを楽しみ、高野町のりんごやりんごジュースなどを土産として購入しました。

企画した三好さんは「参加した皆さんが満足され、庄原市民の温かさに感謝します。好評だったので、これからも季節に合わせて“やまなみクルージング”を開催したい」と話していました。



口和郷土資料館でレコードコンサート

● お年寄りの作品生き生きと 庄原シルバー書道展



生き生きとした作品が並ぶ

庄原シルバー書道展が1月22日～26日、「ジョイフルながえ」の多目的ホールで開催され、お年寄りの味わい深い作品が、訪れた人々を楽しませていました。

書に親しみ、書を生きがいとする方の励みになればと、庄原市書道連盟が毎年開催しているもので、今回で16回目となります。

書道教室などで学ぶ65歳以上の57人が出品。漢詩の一節や和歌などを、行書や草書、かななどの書体で仕上げ、それぞれの感性で表現しています。

同連盟の増原治人事務局長は「年々、作品のレベルが向上している。90代半ばの出品者もおられ、お年寄りの作品から元気を感じ取ってほしい」と話していました。

● 元スキー場で雪遊びを満喫 スノーフェスタ in 口和

「スノーフェスタ in 口和」が2月8日、元 金尾原スキー場で開かれ、市内外から90人が参加しました。

個性あふれるかまくらづくりや、それを使用したジャンプ大会、地元指導者によるスキー教室などが行われ、参加者は一日中楽しく雪と戯れました。また、ぜんざいがふるまわれ、冷えた体を温めていました。

企画した口和町観光協会の上田慎二さんは「市外からの参加者も多く盛況だった。これからも観光資源を活かし、多くの観光客をもてなしたい」と意気込んでいました。



かまくらにペイント

● 節分草の魅力を広める 春の山野草現地講座



春の山野草現地講座が2月13日、道の駅リストア・ステーションと節分草自生地で開かれ、市内外から20人が参加しました。

森林生態調査研究所の伊藤之敏^{ゆきとし}さんが講師で、「節分草は春を告げる花。草刈りをしないと咲かないので、自然と人間が一体となって咲かせる花です」などと、節分草をはじめ春の山野草について説明しました。参加者は「かわいらしく咲いた姿を多くの人に見てほしい」と話していました。

総領町内の7カ所の自生地公開は、3月15日(日)まで。期間中は、ボランティアガイド「花守り」の案内で節分草の観察ができます。



道の駅で行われた講座

● 西城小が地域でおもてなし 地域まるごと福祉教育推進事業

いつもお世話になっている地域の人たちにお返しをしたいと、西城小学校4年生15人が2月3日、大屋多目的集会所で、大屋老人クラブのメンバー32人と交流しました。

これは、社会福祉協議会の「地域まるごと福祉教育推進事業」の指定を受けて行ったもので、児童自ら考案した創作料理でもてなそうと企画。そば粉の団子が入った「そばぜんざい」を作ってごちそうし、地域のお年寄りと一緒に、むすびや豚汁も料理して楽しく会食しました。

この日は節分でもあり、児童が鬼になって豆まきをしたり、鍵盤ハーモニカとリコーダー演奏を披露したりして交流を楽しみました。

最後に、お年寄りに感謝の気持ちをこめたオリジナル「そばクッキー」をプレゼントし、お年寄りからもお返しプレゼントが児童一人一人に手渡されました。児童たちは「地域の皆さんとふれあえて楽しかった」「おいしいと言ってもらえてうれしかった」と感想を話し、老人クラブのメンバーも「子どもたちの笑顔からエネルギーがもたらされた」と喜んでいました。



アイデア料理「そばぜんざい」で楽しく会食